

マイナンバーカードの健康保険証利用に関する協議会幹事会（第1回）

議事要旨

1. 日時：令和元年8月9日（金） 16:00～17:00
2. 場所：中央合同庁舎第4号館11階第一特別会議室
3. 出席者：

内閣官房番号制度推進室長	向井 治紀
内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）	江島 一彦
内閣官房内閣参事官（番号制度推進室参事官）	上仮屋 尚
総務省自治行政局住民制度課長	三橋 一彦
厚生労働省保険局総務課長	宮崎 敦文
公益社団法人日本医師会常任理事	石川 広己
公益社団法人日本歯科医師会常務理事	宇佐美 伸治
全国市長会行政部長	内村 義和
公立学校共済組合本部事務局長	小笠原 潮
全国知事会調査第一部長	川島 正治
健康保険組合連合会理事	棟重 卓三
東京都職員共済組合事務局長	岸本 良一
日本私立学校振興・共済事業団理事	酒井 薫
公益社団法人経済同友会常務理事	菅原 晶子
警察共済組合事務局長	鈴木 信弘
一般社団法人新経済連盟事務局長	関 聡司
全国健康保険協会理事	高橋 直人
公益社団法人全日本病院協会常任理事	高橋 肇
日本商工会議所理事・事務局長	朽原 克彦
公益社団法人国民健康保険中央会常務理事	中野 透
一般社団法人全国国民健康保険組合協会常務理事	西田 重之
一般社団法人日本経済団体連合会専務理事	根本 勝則
刑務共済組合担当課長（法務省矯正局総務課長）	花村 博文
日本労働組合総連合会総合政策局長	平川 則男
東京都後期高齢者医療広域連合保険部保険課長	橋本 幸夫
地方職員共済組合事務局長	水谷 朋之
社会保険診療報酬支払基金オンライン資格確認等システム開発準備室次長	富田 宏之
全国市町村職員共済組合連合会事務局長	山口 最丈
公益社団法人日本薬剤師会常務理事	渡邊 大記

内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）	中山 光輝
内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）	市川 靖之
内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）	安藤 公一
内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）	小幡 泰弘
内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）	江口 寛章
内閣官房内閣参事官（番号制度推進室参事官）	河野 太郎
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室参事官	奥田 直彦
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室参事官	富安 泰一郎
警察庁長官官房給与厚生課長	青山 彩子
総務省自治行政局公務員部福利課長	井上 勉
財務省主計局給与共済課長	斎須 朋之
文部科学省初等中等教育局財務課長	合田 哲雄
文部科学省高等教育局私学部私学行政課私学共済室長	松田 典明
厚生労働省保険局保険課長	姫野 泰啓
厚生労働省保険局国民健康保険課長	熊木 正人
厚生労働省保険局高齢者医療課長	込山 愛郎
厚生労働省保険局医療介護連携政策課保険データ企画室長	山田 章平

4. 議事

（1）開会

冒頭、江島内閣審議官から挨拶があった。

（2）各府省説明

次に、各府省から説明があった。主な内容は以下のとおり。

- ・上俣屋内閣参事官から、「マイナンバーカードの健康保険証利用に関する協議会」の設置等について説明。
- ・山田保険データ企画室長から、医療機関におけるシステム整備の工程表、保険者における加入者のカード取得促進策等概要案等について説明。
- ・斎須給与共済課長から、国家公務員等のマイナンバーカードの一斉取得の推進について説明。
- ・井上福利課長から、地方公務員等のマイナンバーカードの一斉取得の推進について説明。
- ・合田財務課長から、文部科学省及び公立学校共済組合におけるマイナンバーカード一斉取得に向けた取組について説明。
- ・青山給与厚生課長から、警察における被保険者のマイナンバーカード取得促進策について説明。
- ・河野内閣参事官から、今後のマイナンバーカードの普及に向けた広報について説明。

(3) 意見交換

次に、意見交換が行われた。各構成員の主な意見は以下のとおり。

- マイナンバーカードの発行には賛成のスタンスであり、引き続き協力してまいりたい。
- 保険者は様々であり、国家公務員共済と地方公務員共済と同じ物差しで考えないでいただきたい。
- マイナンバーカードを持てば、いろいろ使い道があるということだが、今はコンビニで証明書が取れるぐらいで使い道がなく、なかなか取得に至らないというふうに理解をしている。
- 我が国では健康保険証を出すだけで、全国どこでも安心して良質の保険診療を受けられるというのは非常に重要なこと。その良さを損なうことなく、マイナンバーのインフラを活用したオンライン資格確認の導入をいかに円滑に実施していくか、それが当面の最大の責務だというふうに認識をしている。安定した運営ができるようになった後に、加入者をはじめとした国民の信頼が得られ、これが国民の安心感に繋がってカードの取得促進にも繋がるのではないか。
- 本人同意等が前提条件にはなと思うが、例えば投薬履歴のようなものが入れば重複受診とか、重複投薬というのが、もしかしたら合理化できるかもしれない。最近災害が多発しており、避難所にいる方々で、特に認知症の方で自分のことがよくわからない方も、医師の方や応援で来られた医師の方がデータを見ること等で命を救えるかもしれない。このようなことが将来的に想定をされるので、そういったことも視野に入れて議論いただければありがたい。
- 広報について、協力できることはしっかりとやっていきたい。
- そもそもマイナンバーとマイナンバーカードの違いがわからない方が結構おられる。
- どのような産業でマイナンバーカードの普及率が多いのか少ないのか、把握を進めるべき。
- マイナンバーカードの発行現場から上がってきている声であるが、自治体の受入、発行受付の体制がまちまちなので、できれば共通にしていいただきたいという声がある。例えば、サービスの行き届いている自治体であれば、申請に行った市役所で写真を撮影し、マイナンバーカードは後日郵送するとか。手厚いサービスをされている自治体は発行枚数が多いと聞く。
- マイナンバーカードは 1,600 万枚しか交付できていない。まずは各省庁の職員(扶養者含む)でどれだけ取得されているのかを把握すべき。その上で、取得が進んでいない原因分析が必要ではないか。

(4) 閉会